伊藤氏藏書

錦窠魚譜

鮭譜 十三

錦窠物 [illegible]

孫伊藤篤太郎、僊花

此編ハ余ノ稿スルモノニシテ、鮭魚ニ就テ、隨見隨聞、寒ニ体裁順次ナキ雜纂也、佗日餘暇ヲ得テ、之ヲ訂正セント欲ス」

錦窠伊藤孝

特 7 17 98

別圖

別 11 11 (27)

国立国会図書館　タイトル『錦窠魚譜』　請求記号　寄別11-11

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『錦窠魚譜』 請求記号 寄別11-11

ガラス使用

永世保存
錦窠物産庫
禁出門外

国立国会図書館　タイトル『錦窠魚譜』　請求記号 寄別11-11

ガラス使用

錦窠魚譜

○港口 前後數町ニ過キス出ツレハ海路恬平 或云港口ヨリ海ニ出ル左右一面暗礁岩砂アリ 此ヲ入レハ河湾穏静蓋シ信川港口ニ至テ最モ大就中祝関ノ上下浩々漫々焼島潟 沼垂ノ北ニアリ ト通シテ一大湖海ヲ為スモノヽ如シ所産ノ鱗族鮭ヲ以テ最トス 八ツ目鰻之ニ亜ク其他鱒鯰鯉鮒等ノ属皆有リ

○越後国蒲原岩船二郡外諸河湖　日本地誌提要四

○越後鮭の被　[illegible]

越後目子漬　鮭ノ子ニ　日本

越後[illegible]子　鮭ノ子　日本

○一越後信濃川道鮭　但雄魚

越後新潟港内水門妻伊藤仁右印ヨリ贈リ来ル

[illegible]

○越後鮭鱈[illegible]

○越結世于越後新潟者最佳新潟一馬頭地亦称繁華余詩有云八千八水帰新潟七十二橋成六街海口波平容湊舶路頭沙軟受游鞋花顔柳態令人蘊火膾霜螯着酒懐懐莫道三年留一笑此

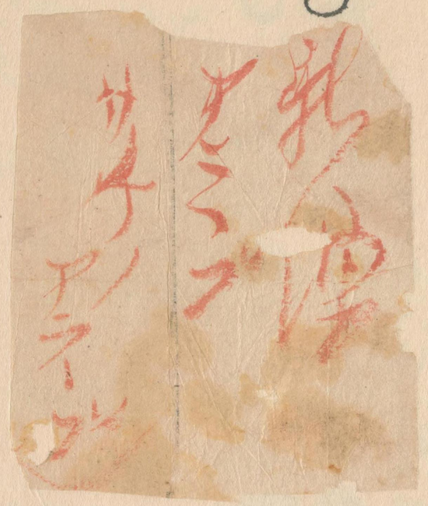
永世保存
錦窠物産庫
禁出門外

○松前は蝦夷地産物あて多しといへども鮭中多きものは鮭を第一とし大船数艘年々イシカリの川へ上りて鮭をとり其外川ある不ふ鮭の猟をなすといへども充つくすといふるなし其たりたるは乾鮭となる又今るの多きは鮭漁よしくるなし此二ツの漁まて此地の人飲食衣服にあまりありといふ是によりて其外の国益はおこりがたし才ある人はるを見て漁者は漁者の仲間をたて農家は農家のコうちをして国益をおこさえ大成功業をなすべしと思ふる先鮭は八月の比河へ出るを捕て大船へ直に塩漬にて塩辛楚剣荒巻節子鮭なとさ回ゝ不ありつけてイシカリ川といふ川此地第一の大河にて平石船二三里ゟ百ハ滞りなく弛せ込といへり蝦夷人とも網とする

永世保存
錦窠物産庫
禁出門外

鮭

○



国立国会図書館　タイトル『錦窠魚譜』　請求記号　寄別11-11
ガラス使用

鍾を代物にいへ　そくに船へ漬込諸國へ出しを秋味といふをや
りを出しとする右肉もつく臭こなと出るものあり風味大にかと
アラウ　蝦夷地にても松前にても食料につくるなら漬引を
越後勇別より出る塩引より風味傷れ已けて筋子などい
蝦夷地より出るもの味ありて呉なり毎年秋になれハ川ある所ハ
ことごとく鍾のぼる枝川何程ありても傳ひのぼりてのちハ水な
き所まで登りて子をなす雄魚まづ石をくゝへ地こしらへをなして
此魚に子を生ずることを手足ありて働くかなし雄魚ハ鱗鰭
なとことごとく安かくりて悪こくるしめる体なり雌魚子をなせば
雄魚そのうちに志しこをかくる白子かくれを洪水にも流れ失ひ
ふかく土砂をかぶりても朽損するなし其子流へいるうて

ひとしせの内にそだち又生れたる川筋をたつゝてのぼりといへり小
川なとも朽物にかけて引上るに三四百つ登りとといふ大河におろす
網をいゆが上におろせとも魚かくらすといふるなし　イシカリノ外
にもキヨヘイシザキ上に岡熊石ヲヽタナイシマコマキアンノロイハナイトマ
ナイヲカムイホロモイノツシヤムユウベツアツケシシヤウヤ三ツ石サルカナ
タ此川にいつれも鍾漁多しまた鍾の少しさる川あり是へを
藻魚少しといふ鍾二十匹一束として例年二百万束ほど捕ると
いへり價安き時ハ松前江差迄にて一匹にて多目貳三十にひさく
るありそれ年にてやすきことあり第鍾一足に魚一ツを加へしといふ
蝦夷地にて交易するハ此定にあらず定めたる直段もなし
蝦夷人船に積来りて在かへくれよとせりむ船あまたなれを

志ばらく詩べき也をいへとも少入ぞ家先キ小ととりかへんこと
を望む故此方の者頻らにしかれて此鮭はあしいといへそなく
ちよそのふるをうちかへし鮭を川へ出て又卵の鮭を積ある
價のあきこと是にておしそかるへしまてたる鮭を後よとり上て
木の枝へかけ和したるもの乾鮭なり又ふ思議なることは川の
友邊に立無ける所小屋に燒込ふてもある時は鮭の鱗に
焦けたる所つく左右の鮭をうて左側に火災あり右側に火災
あるといふるをしるといふ武家所家にて鮭の鹽なる時是を
かゝて酢塩引楚刻荒巻なとに作りて常用となれ餘國の
香のものゝ如し

天明 著

平秋東作 東遊記

○鮭幾尺ノ事

古鮭幾尺ト云ハ隻ノ字ノ音ヲ借リテ云タル也
ト南湖氏物語ナリ

話耽錄 上

○さけ東國産河水者以鱖呼之産湖中者以鱣呼之亦
是河魚上品、唐山河中罕見○鮭 陸奥國三戸郡市 川津軽郡十三湾 本地誌提要三

○鮭ノ養殖

鮭卵孵化ノ為メ適宜ノ地ヲ札幌ニ相シ機械裝置ノ一舍ヲ建テタリ然レ
ト卵子ヲ得ル前既ニ冬月ニ属シ二十五英里ノ路程ヲ経テ孵化所ニ達

○問何恨骨長埋其至鮮者既而作軒赤色如火與吾鄉葛賀屋各
霸テ一方詩中火膾即此也俗偽作鮭字康頼醫心方作鮭引唐
韻辨之然作松魚為正

詩本草 全

北海道不詳

鮭

和名砂計崔禹錫食經曰鮭其子似苺赤光春生年中死故又名年魚新井君美曰往昔朝鮮國信使或問魚於彼國人曰我國鰱魚也按彼國東醫寶鑑鰱魚味又甘美卵如真珠而微紅色味尤美生於東北海中據此說則鰱彼國方言而非乇詩所載鰐一名鰱者崔禹錫合其子如苺說矣此物至秋從海入水時百千連隊而上故从連乎厥後朝鮮來聘時亦京師稻生若水問鮭魚於學士李重叔答曰此我國松魚也又南仲容答曰此我國松魚與鰱性同而躰小也矣彼國學士謂躰小者似謂和邦

之鱒魚蓋京師鮭魚稀也故以小者見學士乎不了

七

之鱒魚蓋京師鮭魚稀也故以小者見學士乎不可知也近値紅毛人而以彼國之方國全圖問蝦夷地方之事荅曰往昔我國商舶有来於蝦夷其時採此國似鱒魚而噉之言即在圖而以番字記説之予紅毛國亦問有鱒耶荅曰我國稱撒兒夢者是也按所記彼方國全圖魚疑是和邦撒計也乎貝原篤信以本艸所載鱖魚充此物松岡玄達以閩書所載過臘魚充此物或為所載東醫寶鑑松魚今華俗曰金鰣魚

○鮭 越中國新川郡沖町及射水郡大門新町 日本地誌提要四

○カラサケ 元 ヒラキ

松前同宗源廣長著 松前志

即チ鮭腊今云于鮭之或枯鮭乾臘過魚ト云此物性却テ発出テ兼テ瘡家モ用ユルトコロアリ故ニ夷狄寒中常食ノモノ[illegible]テチナラト云フ兼好カ徒然草ニ四條大納言隆親卿テ鮭ヲ供御ニマイラセラレ

国立国会図書館　タイトル『錦窠魚譜』　請求記号 寄別11-11
ガラス使用

タルコト見ヘタリ又鮭披ト云モノアリ方俗名称ナリ和名抄ニ魚條ラス
ハヤリト訓シタリ又引本朝式楚割ノ字ヲ用ユ是獻品ニ入レリ此物
古キモノナルニヤ東鑑ニ佐々木三郎盛綱相副小刀於鮭楚割以子
息小童送進御宿中云只今削之令食之處味頗懇切早可
聞食歟云々殊御自愛彼折敷被御染御自笔日マチヱタル人
ノナサケモスハヤリノワリナク見ユルコヽロサシカナ

サケノシホヒキ并アラマキ　松前同宗源廣長著松前志

即チ鮭鮠ニシテ国俗ノ云塩引ナリ此物夷地ヨリ大船ニ満テ他国ニ
運送スルヿ影シ是夷方第一ノ産物タリ又阿良万岐鮭アリ是本苞
苴ノ名目ナルヲ方俗ノ淡塩鮭ノ名トセルモノハ和名鈔ニ引唐韻苞
苴裹魚肉也ト云ヨリオコレルナルヘシ扨我夷方鮭魚ノ夥シキコトハ

海内ノ第一ナレハ八九月ヨリ十月末ニ至ルマテ東南ハ奥羽ヨリ江戸ヘ運送シ或三越ノ地ヨリシテ京大坂ヘモ出ルナリ其大舩ヲ諸国ニテ秋味ト云フ又我藩鮭ヲ産タル河邊ニ漁夫ノ群居スルトコロヲ古ヨリアシヤト云フ其漁夫ヲアゴト云フ今旧記ニ考ルニ秋綱地ニ作レリ萬葉集ニ大宮ノ内マテキユユアヒキストアコトゝフル海人(アニ)ノ呼声トヨメリ是アビキハ綱引ヲ云アコハ乃チ綱(アユ)子ニメ漁夫ヲ云故ニ味屋モ網ナルヘシ

サケノセワタ　松前同宗源廣長著松前志

是ハ鮭魚ノ背中ニアル紫色ノ腸ナリ醢トナシ美食ノ上ニ食フテ旨膈フ開キ奇味アルモノトス延喜式ニ鮭背腸ト出タル即チ是ヘ或ハ是ヲミナワタト訓ス

サケノミラカラ　兵鮓　松前同宗源廣長著松前志

○鮭(サケ)

越後音羽若名左衛門信多話所記 [illegible]

常多れ戸越[illegible]江多湖水羽多[illegible]

[illegible]

○[illegible]石[illegible]川[illegible]

鮭[illegible]

○胡夷魚　鮭魚　檀魚(の胡)

本中羊蹄羊皮[illegible]珍云胡夷魚　鮭魚　[illegible]

河[illegible]一名ナリ檀胡魚ノ名[illegible]

○サケ　松前同宗源廣長著　松前志

即チ鮭ノ魚或作ル鱖字華本ノ三才圖會ニ所載鱖ハ別物ナリ貝原翁ハ鱖字ニ決スヘシト云ヘリ順ノ和名抄ニハ鮭ノ字ヲ用鮭字ヲ俗トス又引食經一名ヲ年魚トス延喜式ニハ鮭字ニ作リ庭訓ニハ夷鮭ト記セリ白石翁亦コレニシタカフ閩書或ハ過臘魚ヲサケトス

又稲若水ノ本草別集ニ過臘魚棘鬣魚ノ一名トス或云鮭ハ河豚名ナリト諸説紛々難決此魚松前近海東西夷地産セサルトコロ稀ナリ西部夷地イシカリ河海此魚最多シ夷方コレヲチヱフト云フチヱフハ唯魚ト云コヽロナレモ此魚ヲ魚中ノ真魚ト云フ意ニテ是亦鮭魚ノ鰓（アキト サヽメ）ヲタヽキテ鯁鰊トス是東都獻上品ノ佳味ノ品ナリ

又鮭鮓アリ延喜式鮭鮨ト出タリ方俗又鮭頭ヲ美味トス国俗ヒズト云フ延喜式ニ鮭氷頭ト記セリ倭名鈔ニ魚丁ニ作リ乃チ引爾雅魚枕謂之丁郭璞注云枕在魚頭骨中形似篆書ノ丁字者也是即氷頭ナリ鮭鮓中此物ト鮭子コ加味セサレハ其味美ナラス

サケノスチヱ并コヽモリ　松前同宗源廣長著　松前志

即チ鮭魚ノ鯠ナリ塩藏シテ食之方俗スシコト云フ順和名鈔ニ崔禹錫食經ヲ引テ鮭其子似苺（イチヱ）赤光一名年魚春生年中ニ

○ サケ　松前同宗源廣長著　松前志

即チ鮭ノ魚或作ル鱖字華本ノ三才圖會ニ所載鱖ハ別物ナリ貝原翁ハ鱖字ニ決スヘシト云ヘリ順ノ和名抄ニハ鮭ノ字ヲ用鮭字ヲ俗トス又引食經一名ヲ年魚トス延喜式ニハ鮭字ニ作リ庭訓ニハ夷鮭ト記セリ白石翁亦コレニシタカフ閩書或ハ過臘魚ヲサケトス

又稲若水ノ本草別集ニ過臘魚棘鬣魚ノ一名トス或云鮭ハ河豚名ナリト諸説紛々難決此魚松前近海東西夷地産セサルトコロ稀ナリ西部夷地イシカリ河海此魚最多シ夷方コレヲチヱフト云フチヱフハ唯魚ト云コヽロナレモ此魚ヲ魚中ノ真魚ト云フ意ニテカク呼ハルナリ河海共ニ綱ヲ以テコレヲトル小河ハマレフト云モノニテ此魚ヲトルナリ圖見テ下萬治二年東部夷地シブサリ深紅ノ鮭魚ヲ出セルヨシ

サケ　旧記ニ見ヘタリ疑ラクハ緋魚ナランカ

是亦鮭魚ノ鰓（アキト サメ）ヲタヽキテ鯁鰊トス是東都獻上品ノ佳味ノ品ナリ

又鮭鮓アリ延喜式鮭鮨ト出タリ方俗又鮭頭ヲ美味トス国俗ヒズト云フ延喜式ニ鮭氷頭ト記セリ倭名鈔ニ魚丁ニ作リ乃チ引爾雅魚枕謂之丁郭璞注云枕在魚頭骨中形似篆書ノ丁字者也是即氷頭ナリ鮭鮓中此物ト鮭子コ加味セサレハ其味美ナラス

サケノスチコ并コヽモリ　松前同宗源廣長著　松前志

即チ鮭魚ノ鰊ナリ塩藏シテ食之方俗スシコト云フ順和名鈔ニ崔禹錫食經ヲ引テ鮭其子似苺（イチコ）赤光一名年魚春生年中ニ

死故名之按ルニ此説正トスヘシ益軒翁曰鰍ノ鮞南燭子ノ如シ
ト即是ナリ春二月下旬ノコロ河中ニ寸余ノ小魚群游ス此亦即チ
鮭子ナリ此物馬療ニ用ユルヿアリ或云四五月ノコロ東部ヱトモ
海邊長サ三四寸ナル小魚アリテカト名ク是又鮭子ナリト其実否ヲ
シラス又藩士工藤長舊云東部トカチ領内ホロベツト云ヘル大河
アリテ初冬ノコロチカ魚群游シテ河ニ満ヲト夷人細ヲ以テトル或
腊トシ冬月ノ粮ニ貯フト然ラハチカハ鮭子ニアラサルヘシ下ニ見ヘタ
リ又牝鮭ノ子其腹内ニ満テルモノコ鹽藏セシヲ方俗コヽモリ
サケト云フ祝儀ニ用ルトコロアリ延喜式供御中内子鮭アリ是
ナリ此物仙臺国冬月ノ獻品ニ入レリ彼地亦名産ナリ国俗
子籠トカケルハ非ナリ

[illegible]

ケ然モノ、今ニモ有故ニテ上リタル魚ヲ取テ鱒ヤ有ヤ又タシテ
テハ鱒モ石川丸ニ石黒モアランラ処ニ椋川ニ到ルトモ堅
サケノ色ヲ以テ鮭ト今ニ於テ湖ニテイシカリ川ニ更ニナルヘシ
言ヘト　右[illegible]

○サケ　河魚　俗称未詳

享保復言全

○サケ
鮭ニカラタヒブチキレ
川ヘ[illegible]レハブチケウホル味アシ[illegible]
ハラ[illegible]
サベリ川ニテトル
山[illegible]里カカリ
○[illegible]ハナマカリ
[illegible]
越後人[illegible]

国立国会図書館　タイトル『錦窠魚譜』　請求記号　寄別11-11

ガラス使用

サケ

鯹　サケ　鮭曰

○カケモヱスモトルニ代鯉ヱ
マスノ[illegible]多ヲシ
カヤキトマスニテリテ
[illegible]
マス[illegible]
サケ
[illegible]
越後人[illegible]

○サケ　河魚　俗称未詳

享保復言全

○サケ

○サケモエスモトル

サケ

国立国会図書館　タイトル『錦窠魚譜』　請求記号　寄別11-11
ガラス使用

○鮭卉

越後ニ当ラアルワザノ川ノ曲ノ角ヘ川ハヾ丈ニ築
杭ヲ透石ナク打テ鮭ノ水中ヲ登ルヿナラサルヤウ
ニシテ之ヲ見サスレバ鮭ハ勢ヒニ乗リテ砂原ヘ上リ砂
上ナ局アマリノ処ヲモ上之リテ又川ヘ入ラシハスル
ナリ漁又ハ川ノ端ニ石ナドヲ積テカクレタルカ具
陰ヨリ長竿ヲ取敗レ出テ鮭ノ印原ヲ見
程コキ処ニテ鮭ノ脊ヲ打テ取之尤カヒカ勢ニ乗リ
テ走ルヿナレハ少シ横ニナリテモ起ルヿアタハズシテ
トラルヽナリ

徘階戦業

国立国会図書館　タイトル『錦窠魚譜』　請求記号　寄別11-11

ガラス使用

東證云 文治六年十月十三日遠江國菊川の宿に相見
佐々木三郎盛綱小刀を右副鮭の楚割を折敷に
居る是小童を以御宿に送進時に中て云只今あれ
を削合せしめ所に氣味をうふる懇切なりまゝ
きこしめさるへきの云し鮭に此自覺し給ひ折敷
に此筆を深くる
まちえたる人の心もまゝ中りのまりなく見ゆる心さし事於朝
所時代にかろき事にてありけれ

国立国会図書館　タイトル『錦窠魚譜』　請求記号 寄別11-11

ガラス使用

○左計乃宇乎（水戸方言）　左計（諸州通名）

鮭（順和名抄）　年魚（同上）世俗用鮭字漢名未詳一本堂
藥選為過臘魚大和本草為鱖魚日東魚譜為松
魚鷄林唱和集亦為松魚諸說紛々不知孰是姑
從方俗所称久慈郡那珂郡所接東海生鹹淡水
交會之處七月出者最為珍献之国君八九月間
出者最盛也至十月漸衰形似鱒魚而大者三尺
許小者二尺許細鱗白色光潤皮厚肉色鮮紅而
多油燒而食之味最美也何辺人々食之以莫不

8

8

珍賞秋冬間出者身生黒斑肉色淡白而不鮮紅
俗呼之山影凡左計頭骨柔軟為鱠可食之味最
好俗呼比須奈未須其子色鮮紅大如南天子粒
々難離透明如連珠俗呼波良々古亦呼波良古
亦有呼筋子者加豆腐煮之而食亦為塩藏収畜
其腸色純白烹之無腥氣其味殊美世人多設于
宴席饗賓客俗呼白腸肉為塩藏者俗呼塩引以
年終鬻之城市城市村落以年始莫不食者左計
稀有冬月来者亦有二三月間来者此所謂閩書
過臘魚當近之郷俗以左計不設于婚席以春生
不過其年而死故忌之按久慈[illegible]左計自古為名

品久矣常陸風土記曰會久慈之河多年魚常陸
国誌曰鮭倭訓佐介東海及那珂河久慈河皆出
那珂河出者最美聞于天下世所謂湊鮭也
威公年譜曰寛永五年戊辰八月五日　公上水
戸所産鮭魚於　幕府視聽日録按鮭魚即鱖也
水戸那珂川所産尤美至今毎秋以初漁者上之
為例　常陸物産志夫

○干鮭　里方カラウオ　方言シヱーベチュップ　北海道膽振州勇拂郡鰲

○サケ

[魚図]さけ　和名抄に出川崖氏食経に鮭その子苺に
似て赤光あり一名年魚春生てその年に死ぬ以て名て
俗に鮭の字を用ゆ鮭は鯸鮎の一名にてさけに作れ
するに生圭似て得るなるべし奥羽多く産す北前蝦
夷尤多し東部の鮮鮭は利根川をかしらとす紀中布川
村尤美し今東奥にその四方に通商しておらずるとなる
なし神祇式に所謂内子鮭は今仙景から出る所の子籠の
塩汁なりその頭骨をひづとして即脳骨にて氷の澄徹る
ものなり又鮭背腸あり和名抄にこれを例す

共に丹後信濃越中越後これを立てるの鮭をはらごといひ胞を連て醃するを筋子或は甘子と云風味甘微温薬

主治 中を温め気を壮す多食へは疾を発

鮭 但馬国豊岡 川氣多川 日本地誌提要五

鮭 常陸国 那珂川 日本地誌提要二

鮭 大和国宇智 吉野二郡 日本地誌提要一

鮭 陸中国磐井郡狐禅寺村等北上川ノ上流閉伊郡小本村 日本地誌提要三

鮭 磐城国鮫川鎌田川宇多川阿武隈川等諸川 日本地誌提要三

鮭 加賀国手取川犀川浅野川等 日本地誌提要四

過臘魚

屠本畯海錯疏云過臘頭類鯽身類鰱肉微江味美尾端有肉口中有牙如鋸好食蚶蚌臘未春去故名過臘泉州府志云奇鬣一名鬐鬣一名過臘魚閩書云棘鬣魚似鯽而大其鬣如棘江紫色喜任按海錯疏所謂過臘即鮭（崔氏食経）和名抄引崔氏食経曰鮭和名左計是也（鮭俗誤作鮭鮭即鱖鮭非左計也）或以鱖為左計者誤也劉恂嶺表録曰白如鱖肉然則鱖肉白而鮭是赤肉也又詩人多桃花鱖魚之語則鱖別是一種昔年其風乾者舶載來又明頼庵所畫圖頭類鮭尾類鮎絶非鮭之類焉泉州府志所謂過臘即鯛（崔氏食経）和名抄曰鯛和名多比大膳或云平魚清人謂之鮫鱷青

泉曰觀要考云朝泉呼為道味奥一名黄山奥又按
鮭名過臘者因臘未春去故以時呼之者也鯛名過
臘者因與奇鬻聲近故以音呼之者也然則過臘奥
有二也
曲直瀬君云哲挨海錯疏所謂過臘亦是棘鬻之
類耳形狀粗同先輩以此間左計充之不穏當左
計狀不頭類鯽身類鰱且秋末未冬初皆去未曾
臘未春去其臘未春去者特松前塩荘者耳左計
海槎録所載江奥是也其形如松奥之鱸身赤云
云之語恰合説見曾草烹茶園擬餘
一音之轉耳

松奥
廿ケ

永世保存
錦窠物産庫
禁出門外

国立国会図書館　タイトル『錦窠魚譜』　請求記号 寄別11-11
ガラス使用

スル ノ際凍死セリ故ニ雌雄ノ鮭ヲ取寄セ孵化所ノ ニ於テ卵ヲ取ン
ヿヲ謀レ𪜈寒天風雪ノ為メ遂ニ之ヲ為スヲ得サリキ○若シ此業ヲ成
就セントスルニハ十一月中旬鮭ヲ撰擇シ卵子ノ成育スル迄ハ孵化所
近傍ノ地ニ養ヒ置カンヿヲ要ス本國ニ於テハ此法ヲ以テ年々數百
万ノ鮭 卵ヲ孵化シ是ヨリ生スルノ利益ハ藉々トシテ世ニ称セ
リ是迄鮭ノ多カリシモ漁獲其度ニ過キ絶無ニ帰セシ地ニ放養シ
再ヒ増殖ヲ致セシノミナラス從来談業未タ曾テ見サル地ニ亦之ヲ
生スルニ至レリ

鮭

石狩河鮭ノ漁場ハ從来著名ニシテ年ニ寄ヨリ其漁獲大約一百八十万
尾ニ至ルト就中秋漁最モ多ク漁獲總高三分ノ二ニ居レリ○春鮭ハ真
ノ鮭カ或ハ鱒ノ一種ナルカ未タ疑ヒナキ能ハス此迄ノ報知ニ據レハ其魚
ハ隨分大形ニメ甚タ肥ヘ肉色極メテ濃厚ナリ鑵詰トナスニ最良品

ナルカ如シ本年充分ニ試験センヿヲ要ス漁夫ノ言ニ春鮭ノ漁獲温候ナ
レハ醃藏甚難シト然モ其困難ハ容易ニ避ケ得ヘシ斯ル貴重ノ魚ヲ注
意保存センヿ最緊要ナリトス

関物類纂 第四號

動植 名彙巻ノ八

さけ シホヒキ

本和下廿五 鮭又年魚佐介 和 林節 塩引干鮭也
和玉 鮭又鮭サケ 字 鮭又剣 内膳式 生鮭一隻 又楚
割鮭一荷又鮭児。氷頭。背腸各一荷 宮内式 例貢
例贄甘子紀親宗云甘子ハ今スシホト云フト同シ 主計式 内子
鮭一隻 鮭脂一斤干鮭一斤
藻塩草きのふたちはふきてこれハ衣川春そほあらひて

さけ乃ゆるなり

サケ

○鯊 サケ 年魚 鮭 俗用之誤也 鮭 河豚也 鯽 ハウ ヽコ 筋子 井子 氏 千

鮭 鹽刃 子篭 水頭 背腹 産後 金瘡藥 千鮭 阿羅

魚 共ニ黒焼 存性 蒸 萍 蓮 草 小角豆 去皮 生用 沉香 焼不

出煙 以上六味分量 有口傳

非日タチケフキテ見レハ衣川スソホコロヒテサケノホルナリ

サケ

○久保鯖 [illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『錦窠魚譜』　請求記号 寄別11-11

ガラス使用

さけ

鮭字をよむは倭名訪に食經を引き又俗用鮭字非也といへり
或年魚とも出せり遇臘魚といへり朝鮮にハ鰱魚といふ東醫
宝鑑に委し裂の義その肉片に裂やすしといへり○かゝるさけハ
法然菓にまゝたら東大寺の聖宝の賀茂の祭日に乾鮭を左刀
にまゝき牝牛にのりて一條の大路を渡るといふるあまハ是もいと
ふるし蝦夷国の産物なり○東坡志林に僧謂酒為般若湯
魚為水梭花雞為鑽籬菜有為不義而文之以美名與此何
異とまゝ所方にても魚を亡者とし鮨(スシ)を剃刀とし鯛を首座
とし堅魚節を獨鈷とし数珠木とす又狸汁鴫焼等の名あり

[illegible]

サケ

○サケ松魚報ナリ東巡日録ノ諸鱸ニ充ベシ松魚ハカツラニスヘシ

栗本[illegible]名物[illegible]

[illegible]

鮭魚人工孵化の概況　北海道千歳鮭鱒人工孵化場ニ於ける鮭魚人工孵化の概況左の如し

鮭魚捕獲及採卵　鮭魚の捕獲ハ昨二十八年十一月二十六日より本年一月二十六日に亘り總數一万百二十尾内親魚に供せしもの五千八百三十九尾、採卵總數八百四十四万八千八百粒なり本期の泝上ハ昨年に比し敢て薄しと云ふにあらざるも捕獲總數に五百三十六尾、採卵總數に百六十一万九千二百粒を減せり蓋し其原因種々あるべしと雖も主として鮭魚の未だ捕獲場に達せざるに早く既に天然の産卵に出でしもの近年稀有の多數なりしに由る

孵化の經過及放流　採取の育卵經過中は概ね良好にして發生ハ本年三月十二日より同四月九日に亘り六百九十八万四千百七十八粒を孵出せり而して其孵出魚ハ養魚池及孵化槽内に於て凡そ二箇月間之を育養し漸次千歳川に放流せり

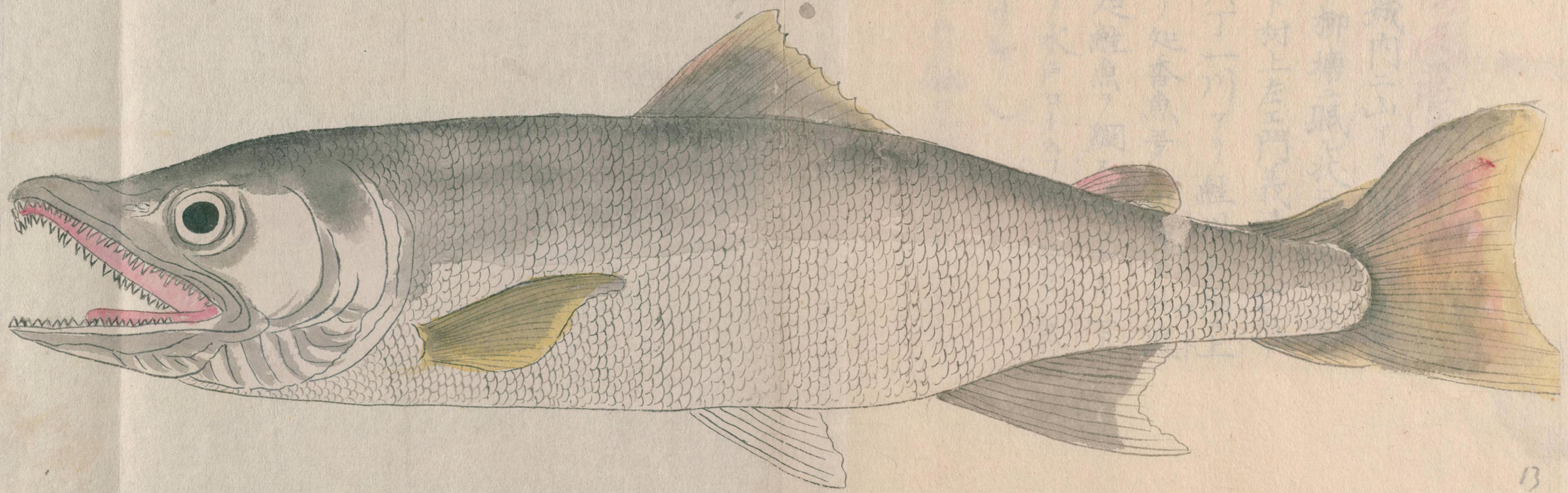
[illegible]日新聞

[illegible]

松魚

サケ

松魚
サケ



国立国会図書館　タイトル『錦窠魚譜』 請求記号 寄別11-11

ガラス使用

○越後村上白鷹送服戸開春詣

北越岩舟郡村上城内ニ山アリ臥牛山舞霍城ト云フ山形犢牛ノ柳塘ニ眠ル状ニ似タリ依テ名ク古昔上杉家旗下村上左エ門義清ノ古城ナリ山マ北ニ去ル丁僅ニ五六丁一川アリ鮭川ト稱ス上流ヲ山邊(サヘリ)里川ト云イ此ノ処香魚多シ中流ヲ外渡(ゲド)前又ハ種(タネ)川ト云フ此ノ処鮭魚ヲ網スル処ロナリ下流海ニ至ル処ロヲ瀬波(セナミ)ノ水戸ロト云フ此ノ処ロノ魚其呆ハイ最モ美ナリ　サケ

鮭魚ノ雄ナル者ヲカナト云イ雌ナル者ヲメナト云イ其卵ヲハラミト云フ

永世保存
錦窠物産會
禁出門外

国立国会図書館　タイトル『錦窠魚譜』　請求記号　寄別11-11

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『錦窠魚譜』　請求記号 寄別11-11

ガラス使用

別 11
11
(27)

国立国会図書館　タイトル『錦窠魚譜』 請求記号 寄別11-11

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『錦窠魚譜』　請求記号　寄別11-11

ガラス使用